

2021(令和3)年度

# 感動作文コンクール

# 第35回作品募集



◎ テーマは「感動」  
タイトルは自由です。

◎ 締め切り 10月1日(金)

- ◎ 部門
- 小学校・低学年の部
  - 小学校・中学年の部
  - 小学校・高学年の部
  - 中学校の部
  - 高校の部

感動していますか？  
あなたの感動をわけてください

- 人のやさしさにふれたとき
- 目標に向かって挑戦し、何かをやり遂げたとき
- 一つの出来事を通して新しい自分を発見したとき など…

そのときの感動体験を、自分の言葉で文章に表わしたとき

新たな発見、新しい自分に出会えるかもしれません

自分の足跡のひとつとして、ぜひ、「感動作文」に挑戦してみませんか！

主催 公益財団法人上廣倫理財団 後援 文部科学省



# 感動作文コンクールとは

感動作文コンクールは、日常の感動体験を見つめ直し、文章にする機会を提供することを通して、子どもたちの感受性や道徳性の育成に寄与する目的で行なっています。令和2年度(第34回)は国内の小中学校、高等学校、海外日本人学校、434校から12,906編の作品が寄せられました。

## 第34回 受賞作品紹介

### 🏆 文部科学大臣賞

中山 美怜 (山梨県 山梨英和高等学校 2年) 『父の仕事』

### 🏆 最優秀賞

小学校 低学年の部 『ばあちゃん』	茨城県 古河市立古河第一小学校 2年	堀内 優衣
小学校 中学年の部 『お兄ちゃんのほうそう』	鹿児島市立坂元台小学校 3年	笹尾 亮翔
小学校 高学年の部 『悪魔がぼくを変えた』	茨城県 水戸市立石川小学校 6年	須賀 要輝
中学校の部 『たった一人の卒業式』	岡山県 倉敷市立北中学校 1年	浅井 貫太

### 🏆 選考委員特別賞

木下 翔太 (東京都 足立区立弥生小学校 4年) 『アマビエ』

## ○ 最終選考を終えて

荻原 武雄 先生

今回の第34回感動作文コンクールには、46都道府県と海外の小・中・高校(434校)と個人応募を合わせて、12,906編の作品が寄せられました。

この応募数については、作品数、応募校数ともに昨年の半分程度になっていますが、これは、未曾有の出来事ともいえる世界規模の“コロナ禍”の影響と考えられます。“学校暦”でいえば昨年度の3学期から、通常の学校運営ができなくなり、国の「緊急事態宣言」が出され、新年度にまたがって5月末まで一斉に休校処置がとられました。

こうした情勢の中で、今回のコンクール開催についての関係者の苦悩、ご努力はいかばかりであったでしょうか。そして、本コンクールの目的である「子どもたちが、身近な体験から得る感動をより深く見つめる機会をもつことで、豊かな心をはぐくむことを応援する」ことの継続の重要性を基盤に、現場の先生方から寄せられた「こうした情勢だからこそ、本コンクールが大切」という“声”も加わって今回のコンクールが実施されました。

さらには、困難な学校事情の中で、応募にご協力いただいた学校関係の方々のご努力に対して、本当に有難いことと心から感謝いたす次第です。

今後、“コロナ禍”の状況がどうなるか予測ではできませんが、今回を基盤に、これからも本コンクールを大切にしていきたいものと強く思います。

第一次選考から最終選考まで、たくさんの選考委員の先生方の手を経て最終選考に残ったのは、小学校低・中・高学年、中学校、高校の5部門各26編の合計130編でした。そして各部門それぞれに、最優秀賞1編、優秀賞5編が選ばれ、各部門の最優秀賞5編の中から文部科学大臣賞が1編選ばれます。

今回の文部科学大臣賞の高校の部「父の仕事」は、開業医として町の人々のために頑張っている父に感動し、応援している作者の心情がしっかり描かれている作品です。“コロナ禍”の初期で、人々のウイルスに対する知識が浅く、心ない風評もある中で、先見性を発揮し、基礎疾患と風邪症状の患者の診療時間や場所を分離したり、猛暑の中でも必ず防護服を着用するなど「命がけでウイルスと戦っている父」への敬愛が溢れています。

また、選考委員特別賞としては、小学校中学年の部の佳作「アマビエ」が選ばれました。近頃有名になり、厚生労働省の感染防止キャラクターにもなったアマビエについて、小さい頃から妖怪大好きな作者の知識は実に豊富です。“将来の夢”が医師である作者がウイルス退散を願って、今、アマビエの絵を描き続けている姿を想像してうれしくなりました。

今回もまた、子どもたちのすてきな感動の中に埋もれて、とても幸せでした。



## 『父の仕事』

山梨県 山梨英和高等学校 2年 中山 美伶

「何かあった時は、子供達のことを頼む。」  
「わかった。でもあなたの命も大切だから、あまり無理はしないでほしい。」

今年の三月六日の夜、私は父と母が話しているのを偶然聞いてしまった。私と兄に聞こえないように話していたことは二人の声のトーンで理解出来た。テレビでは中国の医師がコロナに感染して亡くなるニュースや、東京や北海道の医師や看護師がコロナに感染したニュースが流れていた頃のことである。

私の父は、人口およそ三万四千人の山梨県の田舎町で開業医をしている。東京や大阪などの病院に勤務していたが、少しでもふるさとの役に立ちたいという思いから、生まれ育った町に二年前に開業したのだ。そしてこの日は、山梨県で初めてのコロナの感染者が確認された日であった。その感染者の人が近くに勤めているという情報があり、父と母は夜遅くまで、明日から、かかりつけの基礎疾患のある患者さんと、風邪症状の患者さんを、待合室で一緒にならないようにするためにはどうしたら良いのかを話し合っていた。幸い感染した人は父のクリニックのかかりつけの患者さんではなかったが、次の日から、開業医の医師としてはおそらく町で一番早く、防護服を着てフェイスシールドとN95マスクをつけて、外の駐車場で風邪症状のある患者さんを診ることに決めた。これはかかりつけの患者さんをコロナから守ることにもなるし、クリニックのスタッフを守ることもなるからだ。

ところが、まわりの目はそうではなかった。クリニックの駐車場で防護服を着て患者さんを診察している父を見た近所の人や通りすがりの人は、「防護服を着て診察しているなんて県内初のコロナの感染者はここのかかりつけだったのではないか」という噂が立ってしまったのだ。クリニックに電話や来院をして

「ここが感染者のかかりつけなのか。」

と聞いてくる人もいたようだ。そんな話を母から聞く度に、私は父があんなに患者さんのことを考えて頑張っているのに正しくない情報が流れてしまうことが悔しかった。実際コロナの感染者が都内などで始始めてから、熱のある患者さんを断る医院や病院があることを知っていた私は

「お父さんも風邪の患者さんを診ないようにすればいいんじゃない。」

と言ったことがあった。しかし、父の答えは「誰かは診ないといけない。だから、どんな症状の患者さんでも診るよ。誠実に患者さんと向き合っていれば、いつか間違っただうわさもなくなっていきさ。」と言って微笑んだ。正しくない噂に一番辛い思いをしているのは父のはずなのに、怒ったり、愚痴を言うこともせず、いつもと変わらない優しい笑顔の父に、医師としての覚悟と、人としての強さを感じ、胸がいっぱいになった。

そうして父は、風邪症状の患者さんを断ることはせずに、診察時間を分けて、基礎疾患の患者さんは院内で、風邪症状の患者さんは外の駐車場で診察を続けていた。五月の大型連休には当番医の日があり、熱などの風邪症状の患者さんを診るために駐車場にテントをはり、いつも通り防護服を着て一日中見続けた。防護服が透けるほど汗をかきながらも、患者さんと向き合っている父の姿を、母の撮った動画で初めて見た時は涙が溢れた。今まで話では聞いていたものの、初めて防護服姿の父を見たときのショックと見えないウイルスへの怖さ、そして一生懸命頑張っている父への尊敬の気持ちなど、色々な感情が込み上げて涙になって溢れ出した。

テレビでは、コロナの感染者を受け容れている大きな病院だけが、命懸けで未知のウイルスと戦っているように怯えていた。しかし、小さなクリニックでも、風邪とコロナの見分けがつかない中、命懸けで見えないウイルスと戦っている父のような医師が、世界中にはたくさんいるのではないだろうか。

三月六日に偶然聞いた「何かあった時は、子供達のことを頼む」という父の言葉は、未知のウイルスと戦う決心をした言葉だったのだと思う。山梨の夏は暑い。四十度近い気温の中、父は今日も防護服を着て頑張っている。そんな真っ直ぐで強い父が、私は大好きだ。



Keiko Tange

# 募 集 要 項

テーマは『感動』、タイトルは自由です。

## 部門

- ① 小学校低学年(1・2年生)の部
  - ② 小学校中学年(3・4年生)の部
  - ③ 小学校高学年(5・6年生)の部
  - ④ 中学校の部
  - ⑤ 高校の部
- 以上5部門

## 賞

- ◎ 文部科学大臣賞 …………… 1編  
賞状及び副賞(記念品及び図書カード1万円分)
- ◎ 最優秀賞 …………… 各部門 1編  
賞状及び副賞(図書カード5千円分及び文具セット)
- ◎ 優秀賞 …………… 各部門 5編  
賞状及び副賞(図書カード3千円分及び文具セット)
- ◎ 選考委員特別賞 1編(佳作の中から該当する作品があれば)  
賞状及び副賞(図書カード2千円分)
- ◎ 佳 作 …………… 各部門 20編  
賞状及び副賞(文具セット)
- ◎ 学校指導賞 …………… 優秀賞以上の受賞校  
副賞(図書カード 1万円分)
- ◎ 学校奨励賞 …………… 上記以外の応募数80 編以上の学校  
副賞(図書カード 1万円分)
- ◎ 参加賞 …………… 応募者全員(文房具)

心あたたまる作品を  
お待ちしております。



## 応募先・お問い合わせ

公益財団法人  
上廣倫理財団「感動作文コンクール」係

〒102-0075 東京都千代田区三番町6番地3  
TEL: 03-3261-8711/FAX: 03-3261-8747  
ホームページ: <http://www.rinri.or.jp>



## 応募規定

- 1) 400字詰め原稿用紙に小中学生は3枚以内、高校生は4枚以上5枚以内とします。作文は原稿用紙の1行目から書きはじめて下さい。濃くはっきりと文字を書いて下さい。
- 2) 作品は1人1編とし、作品は未発表のものに限ります。  
※ 但し、校内発表はこの限りではありません。  
※ 後日作品に不適切な点が判明した場合、入賞を取り消すことがあります。
- 3) ① 1作品に1枚、作品の右肩に作品添付票を添付して下さい。  
② 学校応募票に必要事項をご記入の上必ず同封して下さい。(応募者一覧はクラス名簿に印をしたものでも可とします)  
※ 作品添付票・学校応募票、応募者一覧表は当財団ホームページ上でダウンロードできます。ダウンロード出来ない場合は当財団までご請求下さい。
- 4) 作品は、原則としてお返しできません。必要あればコピーをお取り下さい。

## 〈個人情報の取り扱いについて〉

応募に係る個人情報は本事業に関する案内、選考作業、選考結果の通知、行事の案内、その他確認業務以外の目的で用いることはございません。  
当財団は入賞者に関する情報(都道府県、学校、氏名、作品内容)を当財団刊行の入賞作品集、当財団ホームページ、日本教育新聞に掲載するために公開いたします。予めご了承下さい。

## 著作権

応募作品の著作権は、当財団に  
帰属するものといたします。

- ※ 入賞作品集制作にあたり、誤字脱字を含む作品の校正、及び部分修正等を行う場合があります。

## 締め切り

令和3年10月1日(金) 必着

## 発表

令和4年2月上旬

- ※ 入賞者、入賞校に文書で通知するほか、日本教育新聞紙上及び当財団ホームページ上にて発表いたします。

## 作品集

ご応募いただいた学校に一冊ずつ  
入賞作品集を配布しております。

## 過去にご参加いただいた皆様の声

「感動」を作文にする機会は、学校生活の中では多くありません。しかし中には、日記を書く子、読書感想文を書く子など、自主的に書く子もいます。そのような子どもにとって「感動」という大きなテーマで書く機会を得られるということは自分を振り返るチャンスになります。文章にすることで、感動がさらに大きなものになります。(宮城県・小学校教員)

公益財団法人 **上廣倫理財団**  
THE UEHIRO FOUNDATION  
on ETHICS and EDUCATION

## ◎主催者概要

公益財団法人上廣倫理財団は、倫理に関連する学術研究、教育活動の振興育成や社会文化活動の促進を通じて、健全な社会精神の確立を促し、社会の発展に寄与することを目的としています。主に「学校教育」「社会文化・生涯学習」「学術振興助成・研究助成」等の事業を行っています。